

よしむら さくじ せんせい きょうりょく てんらんかい たの
吉村 作治先生 協力! もっと展覧会を楽しもう!



ちり
地理

れきし
歴史

ぶんか
文化



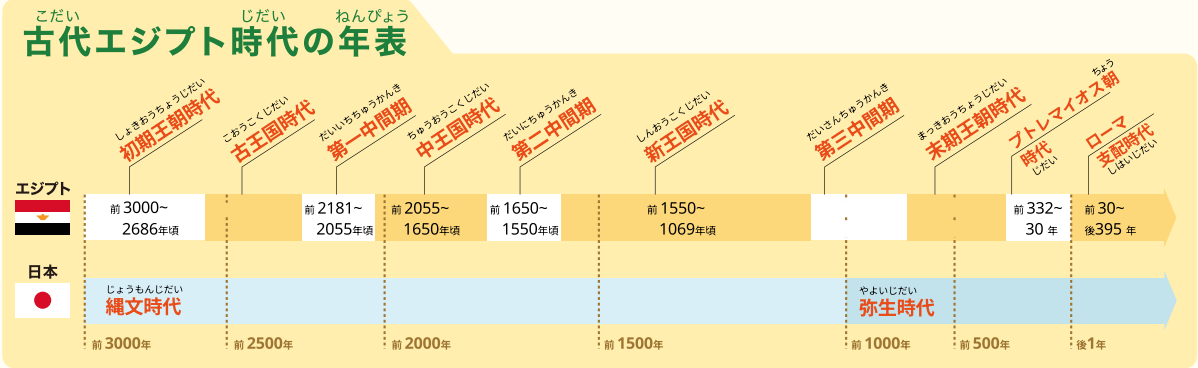
てんらんかい つか
展覧会で使える
たの
楽しいワークシート付き!



エジプトはアフリカ大陸の北東にあります。砂漠の国だというイメージがありますが、人が多く住んでいるのはナイル川のほとりとデルタ地帯です。古代エジプト時代では毎年ナイル川は水の量が増えて、川の周りの土地を水浸しにしました。水とともに栄養をたくさん含んだ泥が川の上の方から運ばれてきて、農業がしやすい土地がつけられました。小麦と大麦のほかに、レタス、ニラ、イチジク、ブドウなどのさまざまな野菜や果物も育てていました。そして、重いものを船で運ぶためにもナイル川は大切でした。砂漠は、たくさんの金や珍しい石がとれました。これらを外国と交換することで古代エジプト文明は豊かになりました。



ラムセス大王は、古代エジプトの新王国時代とよばれる時代の王さまでした。たくさんの建物をつくった「建築王」としても知られていて、中でも岩を削ってつくった「アブ・シンベル神殿」が有名です。エジプトの土地を取り戻すために戦った「カデシュの戦い」では、勇敢に戦ったという伝説が残っています。戦いだけではなく、外国との関係を良くして、争いが起こらなくなるように「和平条約」も結びました。ラムセス大王は、90さいくらいで亡くなりました。このころのエジプトでは、ふつうの人はだいたい30～40さいくらいで亡くなっていたので、とても長生きでした。たくさんの奥さんがいて、子どもも100人以上いました。新王国時代は、古代エジプトの中でもとくに力のあった時代です。今から3000～3500年前のことです。ラムセス大王のほかにツタンカーメン王が生きた時代でもあり、大きな建物やお墓がたくさんつくられました。





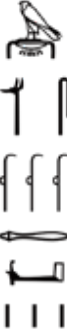
会場に展示されているものには、王さまの名前が書かれているものがあります。古代エジプトの王さまは5つの名前をもっていました。王さまの名前はほとんどは「カルトゥーシュ」という丸い枠か、「セレク」という四角い枠の中に書かれます。カルトゥーシュとセレクを目印に、ラムセス大王の名前をさがしてみよう！

日本でよばれている「ラムセス」は、ラムセス大王の誕生名のエジプト語での読み方に由来しているよ。



自分で書いてみよう！

自分で展示してあるものから探して、まねして書いてみよう。

ホルス名	二女神名 (ネプティ名)	黄金のホルス名	即位名 (上下エジプト名)	誕生名 (太陽神の息子名)
				
つよ おうし 強き雄牛、マアトに あい もの 愛されし者	いこく ち せいふく 異国の地を征服する しゅごしや エジプトの守護者	ちようじゅ いだい 長寿で、偉大なる しょうりしや 勝利者	せいぎ つよ ラーの正義は強い、 えら もの ラーに選ばれし者	かれ ラーは彼を そうぞう もの 創造した者、 あい もの アムンに愛されし者



古代エジプトの王さまは「ファラオ」ともよばれていますが、もともとは「大きな家」を表すエジプト語から生まれたことばでした。これがエジプト王をあらわすようになったのは、新王国時代からでした。

王さまは、太陽神ラーの子どもとされ、この世界におけるホルスの生まれ変わりだとされました。国をまとめるリーダーとして政治をおこなったり、戦争のときには軍をひきいて戦ったり、神さまと人々との間をつないだりする存在でした。

では、王さまの一番大切な役割は何だったのでしょうか？それは、エジプトを「マアト」にしたがって正しくおさめることでした。マアトは、真実や良いこと、みんながよりよく過ごすために守るべきルールをあらわすことばです。古代エジプトの人たちは、マアトが世界をうまく動かしていると考えていました。そのため、王さまは神さまに「マアト」をささげて神さまたちの力をかり、人々の暮らしをまもる、とても大切な存在でした。



ラー

古代エジプトの太陽神です。王さまは、ラーの息子として国をおさめるとされました。



プタハ

創造神で、ものづくりや職人の神さまとされていました。



オシリス

死や復活と関係している神さまです。弟のセトに殺された後、妹であり妻でもあるイシス女神によって復活し、あの世の王さまになりました。



ホルス

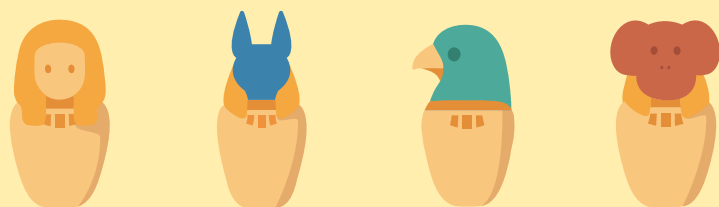
オシリス神の息子です。天空と王さまの力をつかさどる神さまです。セト神との闘いに勝ち、この世の王さまになりました。



セト

混とんと混乱の神さまです。神話ではオシリス神を殺し、ホルス神と争ったとされています。

どうしてミイラと棺^{ひつぎ}がつくられたのかな？

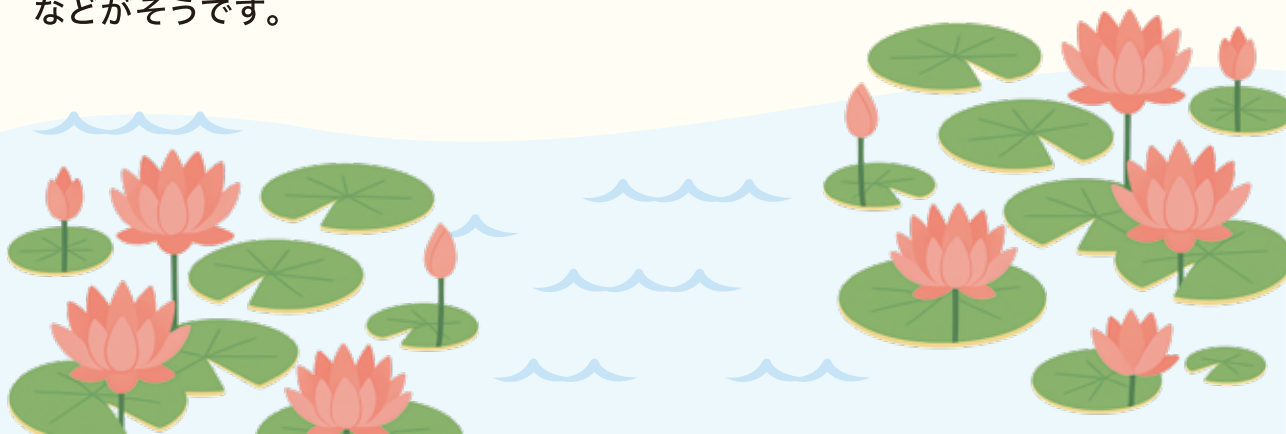


古代エジプトの宗教には、生命^{せいめい}の死^しと再生^{さいせい}のくりかえしが強くあらわれています。これは、ナイル川の毎年^{とし}の水量^{すいりょう}の変化^{へんか}から思いついたともいわれています。

古代エジプト人は死んだあと永遠^{えいえん}の命^{いのち}をえられると信じていました。新王国時代^{しんおうこくじだい}になると、正しい方法^{ただ}でミイラになり、良いお墓^{ほうほう}をつくってお葬式^{そうしき}をすれば、王さまでなくとも再生^{さいせい}できると信じられるようになりました。

死んだ人たちは、あの世^しを旅^{ひと}し、正しい人^よは楽園^{たび}に行くことができるとされていました。

なぜ人々はミイラにされたのでしょうか？それは、死んだ人の魂^{たましい}（バー）が再び体^{ふた}にもどってきて、生きかえることができるようにするためでした。では、なぜ動物^{どうぶつ}もミイラにされたのでしょうか？ミイラになったのは、神さまと関係^{かんけい}があった動物^{どうぶつ}たちでした。たとえば、バステトという神さまと関係^{かんけい}があったネコなどがそうです。



てんじ み 展示の見どころはここ！

古代エジプトでは、「ファイアンス」とよばれる青^{あお}や緑^{みどり}の焼き物^{やもの}で、アクセサリーやお守り^{まも}をつくっていました。ガラス^{ちか}に近いものなので、表面^{ひょうめん}はつるつるしています。エジプトの人たちは、青や緑は「いのち」をあらわす色^{いろ}だとかんがえていたため、ファイアンスはよく使われました。



展覧会^{てんらんかい}では、つかまえられた外国人^{がいこくじん}をえがいたファイアンス製のタイル^{せい}も見られます。このタイルは、王宮^{おうきゅう}の床^{ゆか}にしかけていました。王さまやその家族^{かぞく}がこのタイルをふんでいたと考えられています。

ちゅうもく ここに注目！



タイルによって、髪^{かみ}がたや服^{ふく}、肌^{はだ}の色^{いろ}がちがうね。それぞれちがう民族^{みんぞく}をあらわしているんだよ。よく見ると、腕^{うで}になにかをつけている人^{ひと}がいるね。これは古代^{こだい}の手錠^{てじょう}だったんだよ。首^{くび}にも縄^{なわ}がまかれているね。

！ 考えてみよう

どうしてつかまえられた外国人^{がいこくじん}のタイル^{ゆか}が床にしかけていたのかな？



フリースペース！

まな
学んだことを
じゅう か
自由に書いてね！





君だけの
発見を
まとめよう!